アンケート
&
鼎談

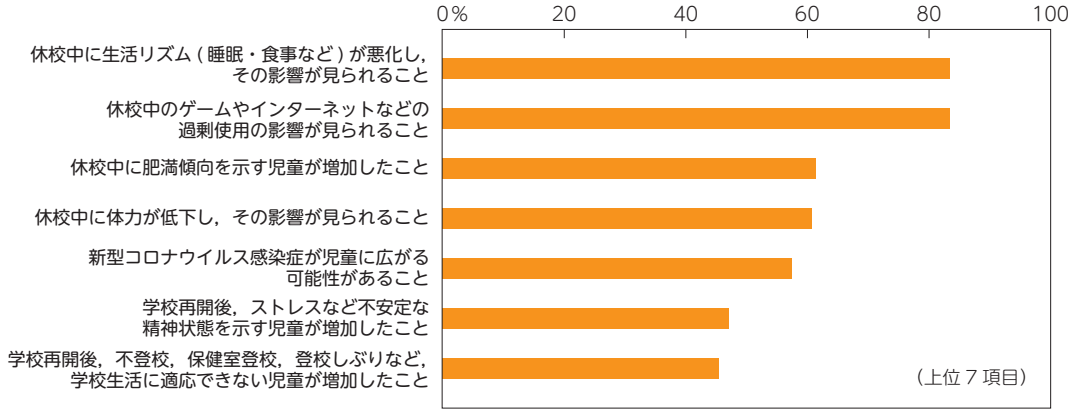
新型コロナウイルス感染症対策の課題

鼎談
渡邊正樹
東京学芸大学教職大学院教授
光文書院令和２年度教科書
「小学保健」監修
戸部秀之
埼玉大学教育学部教授
辻野智香
埼玉県さいたま市立高砂小学校
養護教諭

Q 新型コロナウイルス感染症に伴う休校中や学校再開後の，あなたの学校の児童の状況について，あなたが問題と捉えていることはどのようなことですか。

（複数回答可）

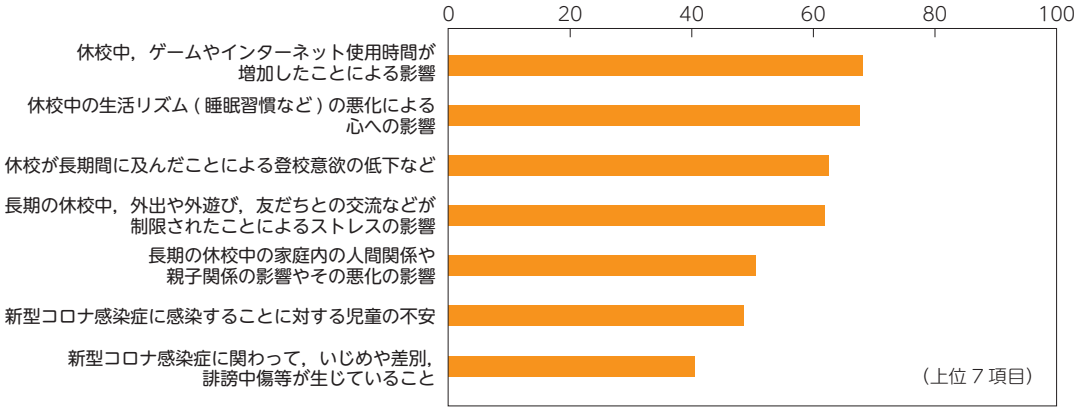
養護教諭が問題と捉える児童の健康課題



Q 『児童のストレスや不安定な精神状態』の背景には，どのような要因があると思いますか。

（複数回答可）

児童のストレスや不安定な精神状態の背景要因



出典：戸部秀之：新型コロナ感染症に伴う臨時休業における児童生徒の健康課題等に関する調査
http://park.saitama-u.ac.jp/~htobe/health/

鼎談

学校現場の状況について

渡邉先生：戸部先生が，養護教諭の先生を対象に実施された調査についてお聞かせください。

戸部先生：３月の時点で，全国の先生方にお声かけしてアンケート調査を行いました。そのときは，懸念に思っていることを中心に回答いただきました。１学期が終わった頃に第２回調査を行い，今度は対策で困っていることや，子どもたちに起こっている問題を中心に調査しました。15ページのアンケートは第２回の調査結果です。

渡邉先生：調査からわかった点などはありますか？

戸部先生：養護教諭が児童の状況について，何を問題と捉えているかを調査したところ，１位は生活習慣の乱れで，約８割の養護教諭が心配だと回答していました。ゲームづけ・ネットづけの生活を送っていたことに対する懸念の声も多く聞こえます。また，心のストレス，学校再開後への不適応が増えてきていることへの懸念の声も，４割～５割程度ありました。

辻野先生：一緒に働く養護教諭からは，太ったり痩せたりといった体型が変化している子どもに対する心配の声が出ています。

学校の衛生管理について

渡邉先生：学校の衛生管理についての指導が文部科学省からもあったと思いますが，養護教諭と現場の先生との連携はどうでしょうか？　現場の先生の負担が増えてしまうことについて，反発などもあるのではないかと思うのですが。

辻野先生：本校では，管理職から先生方へ指示があり，具体的な実施方法は養護教諭から伝えました。文部科学省や市の教育委員会からの通知もあり，現場は全体として危機感をもっていたので，やりたくないといったマイナスの反応などはなかったです。ですが，７月以降は長期になり陽性者もなく，慣れもあり，「いつまでやるのだろう」という声も出てきてはいます。９月に文部科学省から「学校の新しい生活様式」が出されましたが，そこでは，消毒については清掃中にポイントを絞って消毒すればよいという記載があり，10月から教室ではそのようにしています。ただ，トイレや階段の手すりなど共用部分は，管理職からはもうちょっと様子を見ようという指示があり，毎日の消毒は続けています。

戸部先生：現場の先生方の間で，対策に一生懸命取り組んでいる人と，そうではない人の温度差など出てきていますか？

辻野先生：学級担任は，掃除のときに消毒をするという明確な指示があったので，それに従っていますが，音楽や英語の専科の授業の先生は，まだまだ心配しながら授業をされている印象です。一斉授業が成り立つ国語や算数と違って，技能や技術教科は接触に配慮せねばならず，いつになったら以前のような授業ができるのか，どんな配慮をしたらいいのかなど，聞かれることもあります。

公表についての考え方

渡邉先生：もし，学校から感染者が出てしまった際に，公表すべきかどうかについての問題があります。明確に学校名を出す学校もあれば出さない学校も。とても難しい問題だと思います。

戸部秀之 先生

戸部先生：感染が広がるのを防ぐという観点だと，必要な情報なのかもしれないのですが，社会から守られるかどうかが，一番大きいですよね。現代の世の中では，ネットから情報が広がってしまいますから。学校や個人が特定されるリスクがあるため，公表についてはかなり慎重にならざるを得ない。学校としては子どもたちや家庭を守ることを第一に考えますからね。

渡邉先生：自治体が学校を守る姿勢を出すことが必要です。学校が再開した当初は出しにくかったかと思いますが，今は社会の風向きも変わってきているでしょうか。

戸部先生：感染者が出ること自体はやむを得ないという理解があるかもしれないですが，「学校で対策はきちんとできていたか？」という指摘をされたときに説明できるかどうかを学校としては考えますよね。保護者からの要望もあるでしょうし。文部科学省から，そこまでやらなくてもよいと言われても，簡単にはやめられないのが実情ですよね。

辻野先生：先ほどもお話しましたが，やはり，トイレや手すりなどの共用部分の消毒は毎日続けています。また，音楽室や英会話の教室など，コミュニケーションをとりながら授業を行う教室，いろんな学年の児童が使用する教室の先生は，とても気を遣っています。消毒などの対策をやめたとたんに感染者が出てしまったら…，とか，クラスターになってしまったら…という不安は常にあります。ここまで続けてきていたのにと，後悔することになりかねませんから。

渡邉先生：冬が近づいてきて，他の感染症の流行も気になりますよね。

辻野先生：そうですね。通常なら，インフルエンザが流行してくる時期にさしかかりました。気になっているのは，寒くなることで対策がおろそかになってきていないかという点です。わかりやすいのが，手洗いのせっけんの消費です。本校は大規模校ではあるのですが，学校再開後はせっけんの消費がすごく多くて，10日で100個ほど使用されていました。ところが，最近寒くなってきたら，消費が減ってきています。換気についても，寒いと少なくなりがちです。子どもたちが，自分で意志をもって続けてくれるように，工夫をしたいと考えています。

「新しい生活様式」への指導について

渡邉先生：文部科学省から，「新しい生活様式」が出されましたが，実際に学校ではどのような指導がされていますでしょうか。

辻野智香 先生

辻野先生：マスクについては，運動のときは外していますが，教室で勉強するときは，やはり顔を近づけて会話したりすることをとめられないので，マスク着用で授業をしています。ただ，マスクの紐がのびていたり，鼻が出ていたり，口の半分が出ていたりする児童をよく見かけます。全校集会などはビデオで行っており，密になることは避けていますね。

渡邉先生：私も先日実習校に伺ったのですが，低学年の児童にマスクの正しい使用方法を徹底するのは難しいと感じました。ただ，全国的に，学校でクラスターが発生した事例はあまり多くないように思います。手洗いの効果があるかもしれませんね。今回はっきりしたことは，インフルエンザの発生が少ないことをみても，基本の感染症対策に一定の効果があるということです。やはり会話の際には距離を保つこと，マスクをすること，大きな声を出さないことは重要なので，しっかり指導をする必要があります。

渡邉正樹 先生

戸部先生：子どもたちは，休み時間はどのように過ごしていますか？　密になるのもしかたないかと思うのですが，先生から指導はあったりするのでしょうか？

辻野先生：休み時間の外遊びは以前と変わらずにやっているような印象です。授業中にくっついて話していると「そこ密だよ！」と先生が伝えて，さっと離れるといった光景を見かけたりしています。休み時間中というよりも，休み時間が終わったあとに，きちんと手洗いうがいをしてから教室に入るというほうに気を付けていますね。

戸部先生：授業中に話し合いの活動などはされているのでしょうか？

辻野先生：担任の先生方の話を聞いていると，「対話的で深い学びは密。」という声を聞いたことはあります。どうしたらよいか，工夫が必要ですよね。１つの方法としては，PCやタブレットの活用が挙げられるかと思います。本校でもタブレットが配布され，PCルーム以外に６クラス分配布され，算数や理科の学習で使っています。話し合い活動は，タブレット上でのやりとりにシフトしていくのかな，と感じるところではあります。

戸部先生：子どもたちの視力については，どうですか？

辻野先生：本校は，もともと視力が低い子がとても多いです。高学年では，視力が0.3未満の児童が，全国平均と比較して倍くらいいます。メガネをかけている子も多いです。タブレット学習が増えて，家庭でのPC等の使用も増えている現状を見ると，とても心配です。視力が低下しても，メガネをかければよいというのではすまないような気がしています。タブレットを使用する際に，目の体操をすることや目を休めることの大切さを伝えるなど，工夫をしたいところです。

保健の授業で できることは？

戸部先生：今回のコロナ禍の経験は，保健の内容にとても絡んでくるところですよね。まずは，生活習慣に関するところ。例えば，外に出られないこと，友達と会えない，遊べないことをストレスに感じたり，体力が落ちたりしたことを感じている子は多いと思います。

３年生で学習する「健康な生活」においては，健康というのは運動や遊びなど体を動かすことや，人と関わることが大切な要素だと学びますから，こういった経験をしていることが生きた教材になります。また，生活のリズムについても学習しますから，ゲームのし過ぎなどで生活リズムが崩れてしまっている子どもたちの現状において，規則正しい生活の重要性を伝えることが大切になります。４年生では発育・発達についての学習があり，特に運動についての扱いが大きくなっています。運動ができなくなった状況から感じたことをもとに，運動の大切さを理解できるのではないでしょうか。５年生の学習では，心の発達にも体験や人との関わりが影響することを学びますし，運動や遊びはストレスの発散になることも実感できると思います。６年生では，感染症について学習しますから，まさにぴったりの教材になりますよね。この機会を逆手にとって，感染症の教育を広げる大きなチャンスだと捉えることが重要だと思います。人が密になることの危険を，これほどまでに意識することは今までなかったと思います。これをどう生かしていくのか。安全にも関わるところもあるかと思います。保健の学習全体を考えるうえで，よい時期なのかと思います。

渡邉先生：小学校の保健の学習は，自分のことが中心となっていますが，小学校でも，自分のためだけじゃなくて他の人のために感染症の対策が大事だということを，もう少し強調してもよいのかなと思います。また，学校教育全体に関わることですが，神奈川県のクラスター が出た学校のケースで，学校が再開したときにまず差別・偏見をもたないようにする授業を最初にしたそうです。保健からは離れるかもしれませんが，これもとても大切ですよね。文部科学省でも，感染者はもとより，医療関係者に対して差別的な偏見をもつことに対して重く捉えていて，メッセージを出しています。保健の授業でも，そういった観点を取り上げるとよいのではないかと思います。

まとめにかえて

～この経験を，どのように生かしていけるのか～

渡邉正樹 先生

小学校の保健は身近な生活について学ぶので，これまでの経験を１つの知識として，学習に役立たせることができます。そういった意味では，この１年間を通じて学びがあったと言えると思います。ただ，やはりコロナもいつかは収束していき，時間が経つとみんな忘れていってしまう。学びを継続していけるかどうかがとても大切になります。子どもたち自身が，世界中の人たちが経験したことを，過去のことであったとしても，自分の学習で生かせるような保健教育にしていけるとよいと思います。世界的にこれほどまでに感染症が流行るだなんて，誰も思ってもみなかったことです。でも，今回あったように，次も起こるかもしれない。そのときに，冷静にきちんと対応できるような子を育てていくことが，これから必要なことだと思います。

辻野智香 先生

世界のニュースを見たときに，今まで健康教育で子どもたちが学んできた内容を少しでも生かせたのではないかと感じました。小学校の教科書もそうですし，保健の内容を見てみると，きちんと学んでおけば，未知のものにも対応できる力になる。衛生管理的な面から心の面まで，また成長などという点も網羅されているので，保健学習の機会を，学校でもっと大切にしてほしいなと思いました。

戸部秀之 先生

グローバル社会とよく言うけれど，これほど世界と個人がつながっていることを実感できたことはないかと思います。その経験がすごく大きい。こういった世界的な大きな状況の中で，解決策はどこにあるかというところで，手を洗うとか，密にならないとかいった地道な行動が，日本のことであり，世界にも直接つながっているのだと，本当にそうなのだと気づくことができた。子どもたち自身も学んでいることですし，私自身も身に染みて感じたところです。